

府市連携環境セミナー



大阪府環境農林水産総合研究所・大阪市立環境科学研究所 共催

～都市における身近な生物多様性～

1. 生物多様性保全にむけた水路の活用

(大阪府環境農林水産総合研究所 水産研究部主任研究員 平松和也)

水都とも呼ばれる大阪府では、大小の水路が網の目のように流れていて、様々な用途で利用されてきました。また、それらの水路には多様な動植物が暮らしており、近年、水路の生物多様性保全機能が注目されています。今回は、市民と協働で行った水路の生き物調査で、大阪府では絶滅種とされていたコウガイモや絶滅危惧種ミズアオイが発見された例や、茨木市内の農業水路を魚類がすみやすい構造に改修した事例を紹介し、多様な生き物がすめる街づくりを考えます。

2. 大阪の草花の今昔—外来植物が脅かす生物多様性—

(大阪市立環境科学研究所 都市環境担当研究主任 高倉耕一)

身近な草花はしばしば雑草扱いされますが、生物多様性を構成するメンバーでもあります。しかし、その中には今や絶滅が危惧されているものがいくつもあります。そして、身近であったにもかかわらず、なぜ少なくなったのか、もとはどんな生活をしていたのか、といったこともよく分かっていません。タンポポやひつつき虫などを題材に、大阪の草花たちに降りかかった災難、そしてその原因の一つである外来種についてご紹介します。

3. 万博公園の生物多様性と自然再生

(大阪府環境農林水産総合研究所 環境研究部主任研究員 山田倫章)

万博公園自然文化園にある広大な芝生広場は、定期的な刈り込みが行われているため、生物の生息空間に適した環境とは言えません。また、樹林と芝生部分の間に中間的な植生がないので、生物生息空間としての連続性、多様性が低い状態となっています。そこで、芝生広場の一部に刈り込みをしない草地帯を作り、その草地帯が森林と芝生の中間的な植生域となりうるのか、また、そこでは多様な植物相が復元し、それに伴い多様な昆虫が生息する空間となりうるのか、その可能性を検討しましたので結果の概要を紹介します。

とき:平成23年3月4日(金)14:00～16:15
ところ:大阪府環境農林水産総合研究所1階研修室
(大阪市東成区中道1丁目3-62)
(交通) JR環状線・地下鉄中央線・
鶴見緑地線「森ノ宮」から300メートル
定員:60名(申込み先着)
参加費:無料
申込方法:裏面をご覧ください。



申込方法：EメールもしくはFAX

FAXは、本面をご利用下さい。Eメールの場合は、件名を「セミナー申込」とし、お名前と団体・企業等所属の場合はその名称をご記入下さい。メールアドレスは下記を参照下さい。

※参加可能の場合は返信いたしませんので、当日会場までお越し下さい。

Eメール： planning@mbox.epcc.pref.osaka.jp
FAX： 06-6972-7665

氏名

団体名

(団体・企業等の場合)

連絡先

(参加申し込みが定員を越え、参加できない場合に利用します。)

お問い合わせ先

大阪府環境農林水産総合研究所
企画調整部企画課 古川・辻
TEL 06-6972-7661
E-mail: planning@mbox.epcc.pref.osaka.jp

大阪市立環境科学研究所
企画担当 後藤・増田
TEL 06-6771-3043